

奈良のシカ保護管理計画検討委員会

概 要

- 1) 今年度の取組結果（特にシカの生息環境保全について）
 - 1-1. シバ草地の保全・再生の実施
 - 1-2. 堅果類結実および落実状況調査の実施
 - 1-3. 春日山原始林におけるシカの生息状況調査の実施

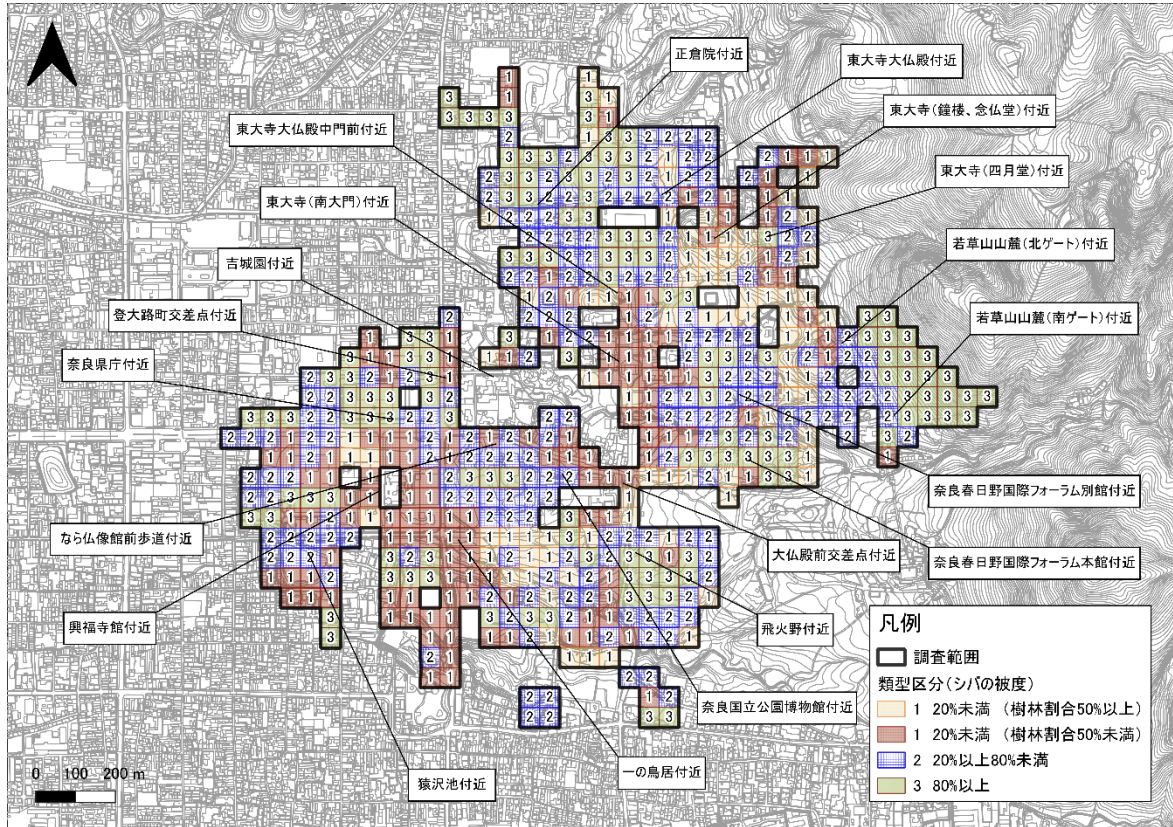
1) 今年度の結果

1-1. シバ草地の保全・再生の実施

(1) 奈良公園を含めた平坦部におけるシバ草地の質的評価の実施

1) 調査方法

調査範囲を50m×50mのメッシュに区切り、メッシュごとのシバ草地の状態をシバの植被率により3段階(1~3)に類型区分して記録した。



類型区分	シバ草地の状態 (50m×50mメッシュ内のシバの植被率)
1	裸地が多い場所 シバの植被率：20%未満 (樹林割合 50%以上)
	裸地が多い場所 シバの植被率：20%未満 (樹林割合 50%未満)
2	裸地が一部見られる場所 シバの植被率：20%以上 80%未満
3	裸地があまり見られない場所 シバの植被率：80%以上

図1 令和7(2026)年におけるシバ草地の状態別分布

1-1. シバ草地の保全・再生の実施

	
裸地が多い場所(類型区分1) (樹林割合 50%以上)登大路園地	裸地が多い場所(類型区分1) (樹林割合 50%未満)登大路園地
	
裸地が一部見られる場所(類型区分2) 浮雲園地:東大寺参道近傍	裸地があまり見られない場所 (類型区分3)春日野園地

写真1 シバ草地の状態の類型区分のイメージ

1) 今年度の結果

1-1. シバ草地の保全・再生の実施

(2) 奈良公園を含めた平坦部におけるシバ草地の保全・再生実施方針の検討

1) シバ草地の保全・再生実施方針(案)

表1 シバ草地の保全・再生実施方針(案)

類型区分	シバ草地の状態	主な場所	優先順位	現状と保全・再生実施方針
1	樹林地以外で裸地が多く状態が悪い場所 植被率: 20%未満	・登大路園地 ・浮雲園地 ・東大寺南大門周辺 ・奈良国立博物館北側	低	【現状】 ● 観光客の入込数が非常に多く滞留時間も長いこと、シバ草地の人による踏圧が非常に高い。現状ではシバ草地の保全・再生は困難と考えられる。 【保全・再生方針】 ● 張芝等による積極的な保全・再生は実施しない。 ● 他の公園整備事業により、シバ草地の保全・再生を実施する場合(登大路園地等)は、観光客の入込数が非常に多いことから、人による踏圧の軽減対策(通路の固定化、誘客イベントの禁止、一定期間の利用制限等)とともに、土壌改良などの生育基盤の改良を行った上で、張芝等を実施する。
		・一の鳥居北側	中	【現状】 ● 観光客の入込数は多いが、通路が整備されており、シバ草地の人による踏圧がそれほど高くない。 【保全・再生方針】 ● 人による踏圧の軽減対策(立入禁止措置等)を実施した上で、張芝を行う。
2	裸地が一部見られる場所 植被率: 20%以上 80%未満	・奈良国立博物館西側	高	【現状】 ● 観光客の入込数は多いが、通路が整備されており、シバ草地の人による踏圧がそれほど高くない。 【保全・再生方針】 ● 人による踏圧の軽減対策(立入禁止措置等)を実施した上で、張芝を行う。
		・春日野園地 ・大仏殿北側 ・飛火野(南側)	高	【現状】 ● 観光客の入込数は少なく、シバ草地の人による踏圧は低い。 【保全・再生方針】 ● 人による踏圧の軽減対策(立入禁止措置等)を実施した上で、張芝を行う。 ● 飛火野(南側)では、斜面地のため土留等の土壌流出対策を実施の上で、張芝を行う。 ● イノシシによる掘り返し等、シバ草地に欠損が生じた場合は、適宜、張芝(補植)を行う。
3	裸地があまり見られず状態が良好な場所 植被率: 80%以上	・春日野園地 ・大仏殿北側 ・飛火野(北側) ・若草山入口(柵内)	中	【現状】 ● 観光客の入込数は少なく、シバ草地の人による踏圧は低い。 【保全・再生方針】 ● 現状の状態を維持する。 ● 観光客等による踏圧が増大した場合は、通路の固定化等の人による踏圧の軽減対策を実施する。 ● イノシシによる掘り返し等、シバ草地に欠損が生じた場合は、適宜、張芝(補植)を行う。

※ 張芝を行う際は、ノシバを基本とし、洋シバは使用しないこととする。

※ 観光客の入込数は、2024年度(2024.4~2025.3)における奈良県が設置している無料Wi-Fiアクセスポイント(AP)への接続人数を参考とした。

非常に多い:60万回以上、多い:20万~60万回、少ない:20万回未満

1) 今年度の結果

1-1. シバ草地の保全・再生の実施

(2) 奈良公園を含めた平坦部におけるシバ草地の保全再生実施方針の検討

2) シバ草地の保全・再生の優先順位が高い場所

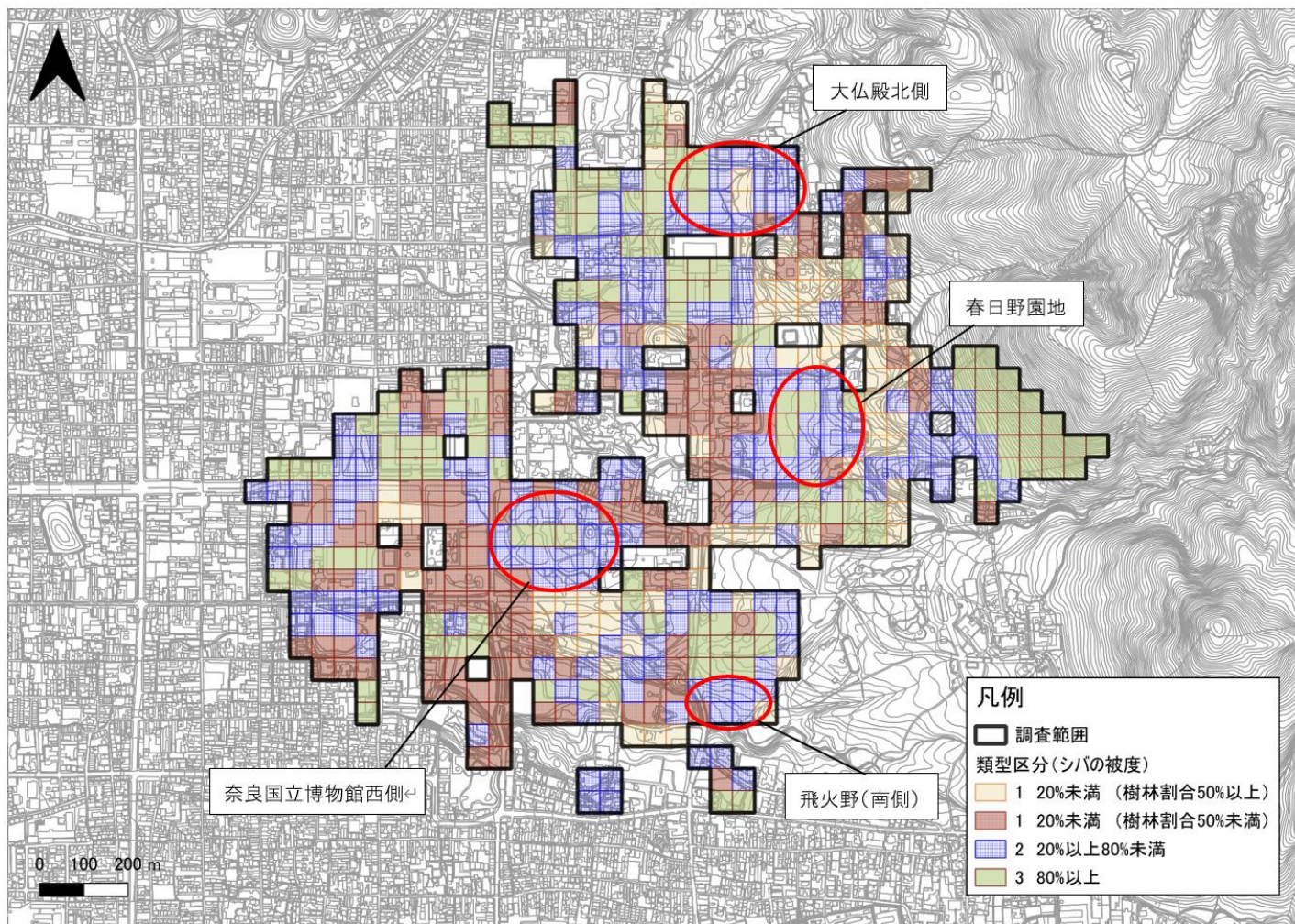


図2 シバ草地の保全・再生の優先順位が高い場所

1) 今年度の動き・計画

1-2. 堅果類の分布状況及び結実状況

(1) 堅果類の分布状況

- 「樹木管理台帳」から、樹種と本数及び分布状況を把握
- 本数は合計980本
- 樹種ごとでは、イチイガシ、シラカシ、アラカシ、スダジイの順に多く、これらの上位4種で全体の98%を占める
- 主に浅茅ヶ原、登大路園地、大仏殿前、国際フォーラム庭園(シカ立入不可)、茶山園地の周辺に分布(図3)

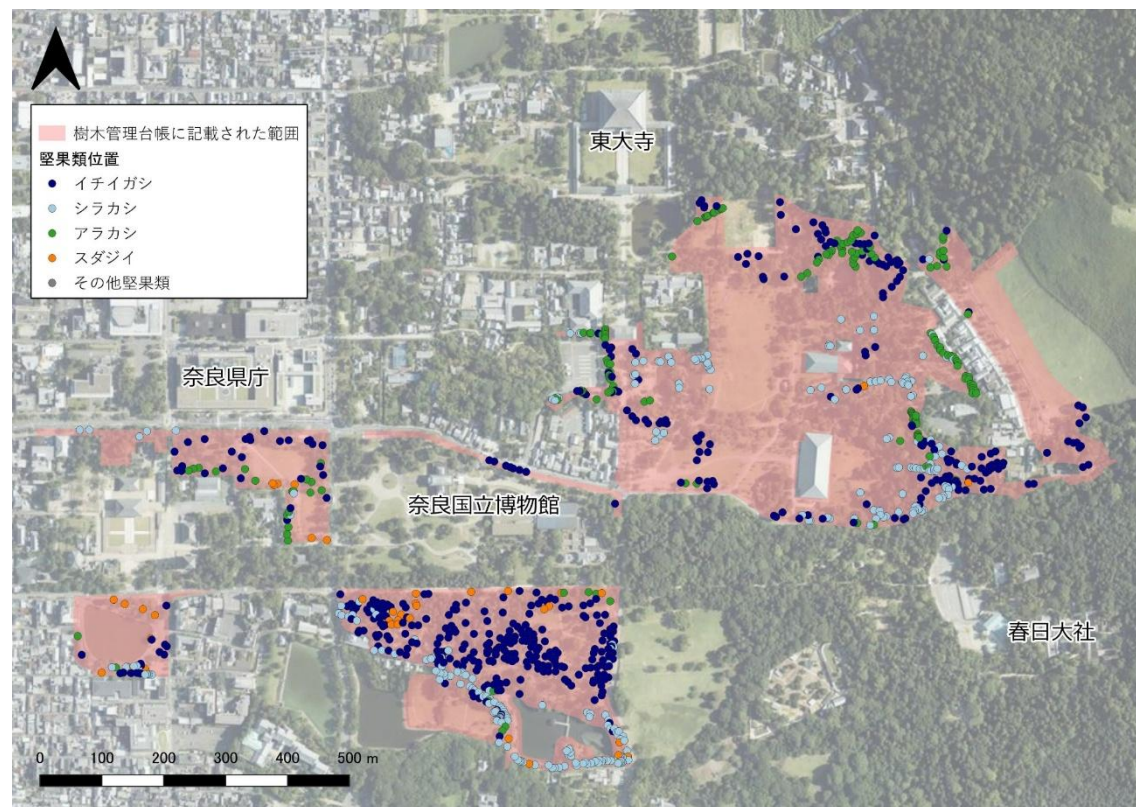


図3 樹木管理台帳に記載された範囲(着色部分)における堅果類の分布(樹木管理台帳(奈良県)をもとに作成)

1) 今年度の動き・計画

1-2. 堅果類の分布状況及び結実状況

(2) 堅果類の結実状況

1) 調査方法

- 調査範囲: 昼間に多くのシカが滞在するエリア (登大路園地、猿沢池、浅茅ヶ原・鷺池、大仏前駐車場、三社池周辺、浮雲園地 周辺)
- 調査木: イチイガシ、シラカシ、アラカシ、スダジイ
各5~20本
- 個体ごとの結実状況として樹冠面積あたりの結実数から豊凶度を記録(表2)
- 樹種ごとの結実個体の割合と豊凶度の平均値(=豊凶指数(表3))を算出



調査木の例(イチイガシ)

表2 豊凶度(個体毎)の評価区分(奈良県, 2025)

豊凶度	樹冠1m ² あたりの結実数
0	1個未満
1	1個以上5個未満
2	5個以上10個未満
3	10個以上

表3 豊凶指数(樹種毎の豊凶度平均値)(奈良県, 2025)

豊凶指数	
■ 0	ほとんど結実がない
■ 0.1-0.6	ほとんどの木で少数以下の結実
■ 0.7-1.2	多くの木で並の結実
■ 1.3-1.8	一部の木で大量の結実
■ 1.9-2.4	半数以上の木で大量結実
■ 2.5-3.0	ほぼ全ての木で大量結実

1) 今年度の動き・計画

1-2. 堅果類の分布状況及び結実状況

(2) 堅果類の結実状況

2) 調査結果

- 樹種ごとの結実個体の割合は75～100%と、いずれの樹種においても高かった(表4)
- 樹種ごとの豊凶指数は1.2～2.6と並以上であった(表4)

表4 樹種ごとの結実個体の割合及び豊凶指数

樹種	豊凶度ごとの 個体数				合計	結実個体の割合 (豊凶度1以上の個体の割合)	豊凶指数 (豊凶度の平均値)	
	0	1	2	3				
イチイガシ	1	5	4	10	20	95%(19/20)	■2.2	半数以上の木で大量結実
シラカシ	3	3	3	3	12	75%(9/12)	■1.5	一部の木で大量の結実
アラカシ	0	2	0	8	10	100%(10/10)	■2.6	ほぼ全ての木で大量結実
スダジイ	1	3	0	1	5	80%(4/ 5)	■1.2	多くの木で並の結実

1) 今年度の動き・計画

1-3. 春日山原始林におけるシカの生息状況調査の実施

- 過年度(令和2年度、令和5年度)と同一地点20箇所にセンサーカメラを設置した
- 設置期間 令和7年12月25日～令和8年2月16日
- 撮影データをもとに生息密度を推定する(解析中)



【令和2年度結果】

- 調査期間 10月～2月
- 推定生息密度 48.2頭/km²

【令和5年度結果】

- 調査期間 12月～1月
- 推定生息密度 53.5頭/km²

